



校風を象徴し、地域に親しまれる校歌。歌に盛り込まれた郷土の文化や歴史を読み解き、学びや歩みを紹介する企画特集「ふるさとの校歌」の掲載が始まりました。(随時掲載)

2021年5月26日付 大分合同新聞 14面



歌詞に城下町の伝統

杵築小

それぞれの校風を象徴し、子どもたちの心を励ます県内各地の校歌。母校を思う卒業生に愛唱され、地域の住民に親しまれている。郷土の文化や歴史、豊かな自然が盛り込まれた歌詞を読み解き、地域の学びの歩みを紹介する。



歌い継がれる杵築小校歌の歌碑と児童

杵築藩の藩校「学習館」跡に1874(明治7)年開校した杵築小。今も旧藩校の門をくぐり、子どもたちが通っている。同校は1914(大正3)年7月に制定された市内で最も古い校歌を持つ。

歌詞には3万2千石の城下町の伝統が詰め込まれている。1番冒頭の「臥牛の丘の松の陰 映す錦江日に新」。「臥牛の丘」は杵築城の立つ城下の江戸時代から

杵築小校歌
臥牛の丘の松の陰
映す錦江日に新
知徳をみがき体を練り
偉人傑士の後追えや
我ら我が友黄城の
少年少女ふるいたて



① 杵築小の富田菜乃羽さん(12)が校歌の歌詞の意味を考え、感じたことは?

「()や()を感じる。()と思う」

②あなたの学校の校歌はどうでしょう。歌詞(1番)を書いてください。

.....

.....

.....

③歌詞の意味を考え、感じたことを書いてください。

.....

.....